



～青森県にある『深浦町』での活動～

◇環境保全活動

世界自然遺産「白神山地」の麓にある深浦町。厄介物の流倒木などを再利用したウッドチップを、地元の遊歩道に敷き詰める活動をしています。また、海岸清掃で拾ったシーグラスなどをアクセサリに加工し、地域の特産品として発信していく取り組みにも挑戦中です。

◇森林スタディ・キャンプ

過疎と高齢化に悩む地域の子供たちと交流しながら、世界遺産の自然を共に学びます。森の中でオリエンテーリングを実施したり、星空観察を開催したりしました。

◇「春日祭」・「御山参詣」・「ねぶた運行」への参加

限界集落化による人口減で、担い手が不足している町の伝統行事に参加し、後世に伝える活動を継続中です。

※

青森県の西南端、日本海側にある人口約8000人の深浦町。

ちょっとシャイだけど優しい町民の方々と一緒に考える、町を元気にする取り組み。好奇心旺盛で天真爛漫な子供たちの笑顔を作り出す、遊びと学びのイベント。豊かな海と森に囲まれた小さな町で人と人の和を繋いで結ぶ、環境保全の活動。

そんな暖かな紡ぎの輪に、あなたも入ってみませんか。

～沖縄 遺骨収集を通しての活動～

◇沖縄での遺骨収集及び、戦争の記録

戦没者の遺骨や遺留品を見つけ出して慰霊すると共に、ご遺族の元へお届けする活動。そして、生き残りの証言を聞き取ったり、フィールドワークを実施したりして、戦争の記録を次世代に継承します。

◇遺族から届いた慟哭の手紙をお返しする取り組み

沖縄戦で生き残った大隊長の元へ、戦後まもなく届いた356通の遺族からの手紙。そこには大切な家族を失った父母兄弟や妻の心境が、悲しみや怒りの声として赤裸々に綴られていました。そのお手紙を約70年ぶりにご遺族の元へお返しする取り組みです。

※

沖縄戦で亡くなったほとんどの戦没者が、今もご遺族の元へ帰れていないことをご存知ですか。戦死の報と共に届いた白木の箱には、遺骨の代わりに石ころや紙切れが入っているだけでした。それゆえ、終戦から72年が過ぎた今も、ご遺族は戦没者の帰りを待ち続けています。そんな方々に寄り添いながら、今も沖縄の山野に眠る戦没者の遺骨を見つけ出し、慰霊するボランティア団体です。

アジア・太平洋戦争の現場で何があったのか。ご遺族はどんな想いで戦後を生き抜いたのか。事実を積み重ねる調査を続け、過去を知り、みらいへ紡いで行く活動です。

みらいを紡ぐボランティア・会員の募集を開始

深浦町での活動：5月～9月 遺骨収集活動：2月 遺留品、手紙の返還活動：年間不定期

連絡先：miburo.sd1101@ezweb.ne.jp

学生代表：経済学部4年・根本里美